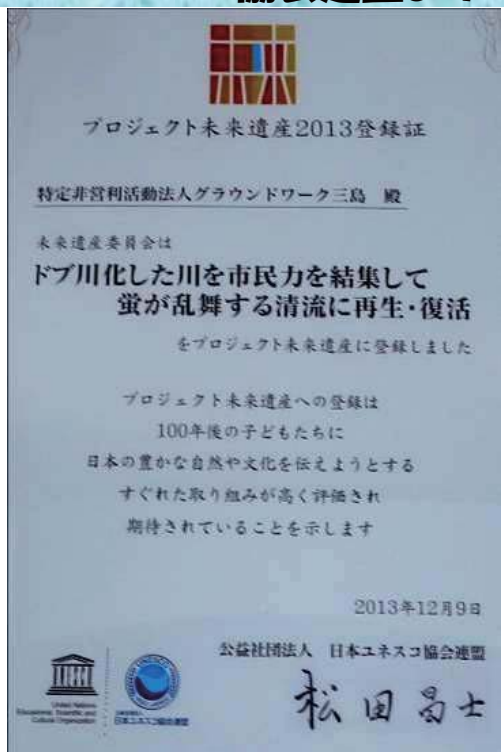
グラウンドワーク三島
ボランタリーニュース
Ｎｏ.53　2014 年（平成 26 年５月 31 日発行）

発行　特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857　静岡県三島市芝本町 7－11
TEL 055(983)0136　FAX 055(973)0022
URL http://www.gwmishima.jp/
E-mail：info@gwmishima.jp

グラウンドワークとは・・・・・・・
市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
（文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。）

第5回「プロジェクト未来遺産」登録証伝達式　日本ユネスコ協会連盟より



▲登録証の中央部分を拡大したもの

▼挨拶される原博男沼津ユネスコ協会会長

3 月 16 日、Via701 にて、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」登録証伝達式が行われた。来賓の豊岡武士三島市長や原博男沼津ユネスコ協会会長のご出席のもと、同連盟未来遺産委員会の古谷尭彦委員より、小松幸子ＧＷ三島理事長にずっしりと重い大きな登録証が手渡された。

小松理事長は、「20 年以上にわたり長く続けてきた活動が評価されてとても嬉しい。100 年後までホタルが乱舞するような清流・源兵衛川を引き継ぐ責任は大きいが、みなさんとで協力して頑張っていきたい」と語った。

川の希少種保全フォーラム開催

また、同日同所にて、「川の希少種保全フォーラム」が開催された。

午前中は、ＧＷ三島主催のエクスカーションとして源兵衛川などの視察観察会を実施。午後は、次の 7 テーマで話題提供がなされた。①「源兵衛川の希少種保護活動」渡辺豊博ＧＷ三島専務理事 ②「三島市内のミシマバイカモ」島﨑禮次富士山湧水インストラクター ③「源兵衛川のゲンジボタル」志村肇三島ホタルの会会長 ④「源兵衛川のホトケドジョウ」と ⑤「三島市と県内のトンボ」加須屋真常葉大学非常勤講師 ⑥「源兵衛川の植生植物」菅原久夫常葉大学非常勤講師 ⑦「忍野村のホトケドジョウ」渡邉実ＮＰＯ法人富士おしの名水倶楽部理事長。話題提供者は、それぞれパワーポイントを使って丁寧に説明した。

その後、藤枝市の山田剛弘ＮＰＯ法人里の楽校理事を加えて車座座談会が開かれ、質疑も活発だった。

▲渡辺豊博さん

▲志村肇さん

聴衆は、様々な角度から源兵衛川の希少種を見つめ直すことになり、その保全に向けて質疑や熱心な意見交換がなされた。市民による川の希少な動植物の保護活動を学び合い、ふるさとの宝物である生き物たちの保全について考えを深めた貴重な１日となった。

▼加須屋真さん

▼島﨑禮次さん

▲菅原久夫さん

▼渡邉実さん

▼山田剛弘さん

川勝平太静岡県知事表敬訪問
プロジェクト未来遺産登録報告等

5 月 27 日、静岡県庁に川勝平太静岡県知事を表敬訪問し、プロジェクト未来遺産登録の報告を行った。訪問者は、小松幸子理事長、小野徹副理事長、渡辺豊博専務理事、志村肇理事、越沼正評議員、森昭夫評議員、スプリチャル修平ルイス事務局員。豊岡武士三島市長、宮﨑眞行三島市産業振興部長も同席。知事からは、お祝いと励ましのお言葉をいただいた。

県立清水特別支援学校高等部2年生体験学習

5 月 15 日、生徒と教職員 42 人が来訪。GW三島のインストラクターやGW三島編集室メンバーが事務局と共に対応。白滝公園でミニ出前講座を行い、生徒は 4 グループになり、徒歩で、楽寿園、宮さんの川、ほたるの里、源兵衛川中流域、水の苑緑地、源兵衛川下流域で、ちゃんかけ拾い、ミシマバイカモ観察、生き物探しを行った。夜は、ゲンジボタル観察ナイトウォークを実施した。

シンポジウム「地域資源を活用した新たな自律型都市を考える～麻機遊水地の可能性と課題を例に～」

2 月 22 日、静岡市アイセル 21 で、静岡市主催・GW三島共催のシンポジウムが開催された。静岡市は「第 3 次静岡市総合計画」の策定を進めており、地域資源の活用、いわゆる「まちみがき」がキーワード。事例として市街地からわずか 5 ㎞の麻機遊水地を取り上げ、協働での「まちみがき」の在り方について具体的に考える集いだった。

GW三島、英国ロンドンの湿原の取り組み、霧多布湿原ナショナルトラストの紹介、田辺信宏静岡市長も交えた座談会、参加者との質疑応答などが行われた。GW三島は、麻機遊水地の将来像の策定業務に関わっている。資源環境も取り入れながら自律的な発展を目指すために、グラウンドワークの手法に注目が集まっている。

英国のロビン・ヘンショウさんより

グラウンドワーク三島理事長・小松幸子（こまつゆきこ）様

クリスマスにはお便りをありがとうございました。相変わらずお元気でGW 三島の理事長としてご活躍のことと思います。私は妻と共に孫や母親の世話をし、地域の判事の役目も務めながら英国の早春を楽しんでいます。

週に 2～3 回（子供たちの母親が勤務の間）、2 歳になる孫のジョン・ポールの世話をしていますが、大きくなるにつれ肩車さえ大変になってきています。先週私の母親は 92 歳になりました。記憶力が衰え 2 度も転びましたが今は元気になり、週 2 日は共に過ごしています。地域の判事を務めていることで私の脳も活性化し、挑戦ではありますが楽しみでもあります。

妻と私は出来るだけ戸外に出るようにしています。家には広い庭があり、孫たちが冒険するのにはもってこいの場所で芝生は遊ぶのに好都合です。私たちは週 1 回、62 歳以上は朝 9 時半以降無料というバスや電車を使って出掛け、運河に沿って歩いたり、湖の周りを散歩したり、川谷に沿って歩いたり、途中、昼食のためのパブを見付けたりしています。

昨年三島を訪れたことを思い出しています。それは私の 10 回目の日本訪問で多分最後となるでしょうが、そのうちのハイライトを考えてみました。

日本や英国のたくさんの方々と共に楽しく過ごせたことは、私にとって素晴らしい経験でした。最も強く印象に残っているのは、美味しい魚やビール付きの夕食、あなたや渡辺さんや徳子さん、それに多くの方たちの笑い声です。また三嶋大社、源兵衛川などを何度も訪れ、深い愛着を感じました。九州や北海道への電車旅行もハイライトの１つです。また斎藤さんや水野さん宅でのホームステイはとても格別なものでした。それからもう１つ、時々思いだすのは、ホテル・ドーミーインの屋上の温泉です。下を新幹線が音を立てて走り去るのを聞きながら、温かい温泉につかって、遠くには富士山を眺望でき、楽しかったです。

写真をお送りします。これからもお互いに連絡が取れて、交流できるといいですね。英国にいらっしゃることがあれば、ご連絡ください。私がマンチェスター空港まで出向き、1 週間は私の家に滞在できますよ。

ロビン・ヘンショウより

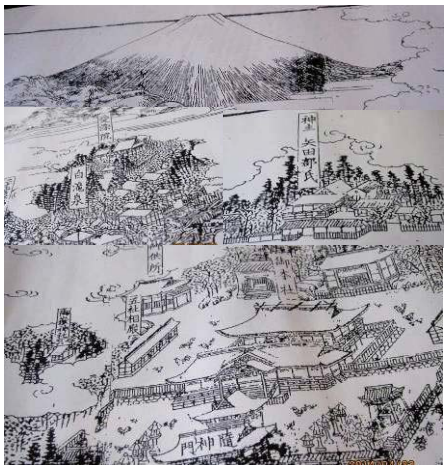
過ぎゆく三島　いつまでも　その16

三島に教育の種をまいた儒学者　　並河 五一

並河五一の立派な墓所の一部

寛文 8（1668）年、山城国紀伊郡大路村の豪農の家に生まれる。名は永。号は誠所。並河五一郎とも称される。7歳にして『大学』の素読を受け、14歳の時京都の神主・奥村右京について漢学を修める。23歳で京都の儒学者・伊藤仁斎に復古学を、武者小路実陰に学ぶ。元禄11（1698）年30歳で掛川藩の藩儒となり、宝永3（1706）年に辞任。その後宝永5（1708）から享保元（1716）年まで川越藩の藩儒を務める。以後仕官せず、江戸で私塾を開く。兵法，和歌、文武の技に至るまで幅広い方面に精通していた彼の下には、多くの門下生が集まった。この間京都に塾を開いていた弟の儒学者・並河天民のところへもたびたび出かけ、経世済民思想*に強い影響を受ける。さらに、歴史、地理、動物、植物から風俗、異聞にまで関心を広げ、宝蔵学者*・関祖衡（そこう）や本草家*・野呂元丈と親交をもった。本草学への関心は、単に学問的興味だけでなく、飢饉の様な非常時の際の備えという実学的観点からであったともいわれる。

享保9（1724）年56歳の時、伊藤仁斎の下で同門だった三嶋明神の神主・矢田部盛富の誘いを受け、三島を訪れる。享保11（1726）年5月には三島宿の北に漢学の私塾「仰止館（ぎょうしかん）」を開く。富士がよく見えるので富士見亭とも称した。当時五一から実学を学びたいという機運が高まっていた伊豆、東駿河の俊秀が「仰止館」に集まった。泥臭い地方の青年の教育は五一の晩年の生きがいともなった。「仰止館」からは、後に伊豆の地誌『豆州志稿』の編纂者・秋山富南を始め、逸材を輩出した。江戸時代中期から明治初頭にかけ三島には15の漢学塾や寺子屋がつくられたが、その先駆けともいえる「仰止館」は、まさに地域に教育の種を蒔いた場所となった。また、五一の三島での住まいや「仰止館」の位置は、当時の三嶋明神敷地内の北、現在の順天堂大学保健看護学部辺りではないかと推測される。


郷土史家・関守敏氏所蔵の資料参考

享保14（1729）年61歳の時、幕府より畿内地誌編纂の命を受ける。老躯に鞭打ち、門人の協力のもと古跡を尋ね、名境を探り、艱難を冒し、五畿内（河内・摂津・大和・和泉・山城）を歴遊した。やがて6年の歳月をかけ享保19（1734）年、『五畿内誌』を完成させ、その稿本を幕府に献上した。幕府は白銀十枚を下賜してこの功績を讃えた。『五畿内誌』は我が国初の本格的な地誌であり、これを範として各地で地誌の編纂が盛んに行われるようになった。五一は徳川時代の地誌編纂の先駆者といわれるとともに、近代地理学の創始者の1人とも称される。

元文2（1737）年中風に罹り、翌3（1738）年死去。享年70。遺言によって金堀塚（現三島北高内）松樹の下に葬られた。大正8（1919）年三島野戦重砲兵連隊がこの地に移転された時、墓地は泉町の本覚寺に移され、現在に至っている。墓碑には43人の門人の名と師を慕う碑文が刻まれている。碑文には、「先生善を勧め、過を規（ただ）して、善く人を訓導す。我をして利を遠ざけ義に近づけ、倫理有ることを知らしむ。・・（中略）・・義に当たりては少しも仮借せず。・・（中略）・・自ら奉（やしな）ふこと極めて薄く，族を賑はすこと甚だ厚し」とあり、五一の教育観や人柄がよく伺える。

安政4（1857）年、並河五一の120年忌が執り行われた際、孫にあたる儒学者・並河寒泉は、五一の門弟の子孫11名それぞれに、金堀塚を守っていてくれたことへの感謝の念として一幅の書を贈った。そこには漢文で、三島人の人情を讃え、門弟の長きに亘る塚守に対する深謝の思いが書かれている。

最後に、五一が三島を終の棲家として選んだのは、当地の清冽な水や、豊かな自然、霊峰富士などに強く魅せられたからだと考えるのが自然であろう。

なお、並河五一に関しては資料が少ないため不明な点が多い。後世の歴史家の研究が待たれるところである。

＊経世済民：中国の古典にあり、文字通り「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」意味
＊宝蔵：貴重な宝物や経典を納めて置く蔵
＊本草学：中国に由来する薬物についての学問。薬物研究にとどまらず博物学の色彩が強い。
出典：『三島市誌』『三島の教育百年史』『沼津市誌』『三島アメニティ大百科』

耐えた苦労が今は宝

松毛三日月会副会長　小畑（おばた） 茂雄（しげお） さん
三島市御園在住

７年前、母親の 99 歳のお祝いをホテルで開催。今は 106 歳。

昭和 17（1942）年、新潟県中頚城郡（なかくびきぐん）斐太村（ひだむら）（現妙高市）で生まれる。7 人兄弟の 6 番目で、6 歳の時に父親が他界し、母親が女手ひとつで苦労して子供たちを育てた。子供の頃は、家ではおとなしかったが、学校では積極的でリーダー格だった。その頃から、早く実社会に出て商売や事業をしたいと思っていたので、学校での生活は実社会の勉強、教科書の知識より体験から学ぶことを大切にして行動した。早くから働きに出たいと思っていた息子を母親は不憫に思ったのか、今でも「茂雄には何にもしてやれなかった。すまなかったね」と、会うたびに言う。母親は現在 106 歳で、健在である。

中学卒業後、菓子職人を目指し高田市（現上越市）のパン屋に住み込みで修業に入った。朝 4 時からのパン作り、学校給食用のパンの配達が終わる夜 8～10 時まで、休む間もなく働いた。パンを届ける学校は、市内ではなく山間部だったので、自転車にパン箱を積んで運んだ。冬は寒く、手足は冷えきり雪道にリヤカーのタイヤが埋まって、苦労したことが何度もあった。当時は、長時間労働は当たり前、休暇は盆と藪入の 2 回だけ、賃金も無、2 年過ぎてからは月額 500 円支給された。それでも、技術を身につけようと懸命に働き仕事を覚えることに専念した。「この時の苦労はテレビドラマ『おしん』そのものでしたよ」と。

そして 5 年が経過。通常 7～8 年で年季が明け暖簾分けとなるのだが、確約できないと言われ、叔父の勧めで昭和 36（1961）年、東レ三島工場に就職。他の新入社員とは 5 年のブランクがあった。東洋学園（企業内高校）に入学し、三交代勤務をしながら勉学に励んだ。この時出会った教師から「技術だけでなく知識も必要」と諭され、それまでの自分の考え方（知識よりも仕事、仕事を覚えれば収入に直結する）を改め、ボイラー技士、危険物取扱者等資格試験に挑戦した。全て 1 回で合格した。職場では 2～3 年毎に配置転換があり、慣れた仕事からの異動を敬遠する人が多かったが、全工程の仕事が覚えられ、人との交流も広がると前向きに捉えた。艱難辛苦も、出会った人たちも、全ての経験が財産であり自分の土台になっていると思う。それは今、地区民生委員の活動や趣味など様々な分野の人たちとの付き合いの中で生きている。平成 14（2002）年、定年退職。

写真の右側は、東レ時代、会議に参加している小畑さん

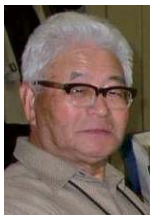
退職後も、早朝から仕事に出かけ、民生委員を引き受け、休むことなく動き回っている。困っている人を助けることが福祉の基本と考え、研修会などに積極的に参加し、他地域の良い点を行政に提言している。働くだけでなく、カラオケ、旅行、野菜や果実の栽培等の趣味も楽しんでいる。カラオケは、演歌を中心に 2000 曲ほど歌える。年に 1～2 回発表会にも出場している。

平成 16（2004）年、御園町内会会長の時、地区圃場整備事業、松毛川再生計画を通してＧＷ三島と出会い、研修会に参加した。平成 20（2008）年、地元の人たちと「松毛三日月会」を発足させ、副会長として活動している。「河畔林を有し、昔ながらの自然が残っている貴重な環境である松毛川の良さを多くの人たちに広めていきたい。河畔林の保全対策、千年の森づくり、親水公園化と野外環境教育などの活動を通して、良い自然環境を次世代に守り伝えていくことが自分の役割だ」と語った。

名刺には「私はこの松毛の貴重な自然環境を復元して守り抜きます」と記されている。座右の銘は「努力」。

インタビューを通し、若い頃から、置かれた状況を常にプラスにとらえ労を惜しまない生き方に、胸打たれる思いがした。

松毛川の河畔林の間から望む富士山（手前の木立は三島側）



ボランティア活動に生き甲斐を

「沢地グローバルガーデン」サポーター
水野（みずの） 敏雄（としお）さん

昭和 12（1937）年 12 月 24 日、富士市に生まれる。この年、日中戦争勃発。当時クリスマスイヴの祝いは勿論、誕生日祝いなどもなかった。大学を出て、教師だった両親と同じ道に進み、富士市の中学校で社会科担当。昭和 39(1964)年、同僚と結婚。3 人の息子に恵まれた。

グローバル文化交流協会（ＧＩＡ）との出会いは、会員である妻の活動に協力していた頃で、次第にＧＩＡのイベントなどにも参加するようになり、今では非会員なのに会員づらをしている。沢地グローバルガーデン（以下ガーデン）の作業に最初参加したのは、錦田中学校に勤務していた時で、英語教師のロス・ドムニー氏と親しくなり、ガーデンの作業日に彼と中学生に作業への参加を呼び掛けた時だった。多い時には 10 数名の生徒が参加し大変賑わった。作業後は生徒の楽器演奏などもあり、ガーデンは国際交流の場にもなった。当時ボランティア活動をすると高校受験の内申書に記載されることもあって、参加者が多かったのかもしれない。また、グラウンドワーク三島主催の全国大会が三島市内のホテルで開かれ、その際、2 人の中学生がガーデンでのボランティア活動について意見発表したことが注目された。現在ガーデンの定期的作業に参加すると共に、我が家で育成した苗を植えたりしている。

忍野八海で富士山も堪能

最近、グラウンドワーク発祥の地・英国から来日したロビン・ヘンショウ氏が、我が家に 2 回ホームステイした。バードウォッチングが好きな彼と田貫湖畔を散策したり、山梨県の忍野八海や山中湖周辺を探索し、富士山の眺望を楽しんだ。

この他、民生委員を 4 期務め、現在は市内 4 つの福祉施設を訪問する介護相談員を受け、地域の環境改善に取り組む「北上えこくらぶ」や、三島駅南口の清掃活動をする一方、図書館ボランティア等も行い、忙しい毎日を送っている。こうした社会と結び付いたボランティア活動に、生き甲斐を感じている。趣味は音楽鑑賞、旅行、園芸など。好きな言葉は「誠実」「諦めない」である。

人のためになることを探す毎日

「ＧＷ三島の諸々の活動」サポーター
芦川（あしかわ） 栄子（えいこ）さん

横浜市生まれ。5 歳の時、空襲に遭い、御前崎の父の実家へ疎開した。戦後、父の親戚が住む熱海へ一家で転居し、生活が一変した。学校を休んで畑仕事を手伝うなど、暮らしは楽ではなかった。だが、そんな時代を生きてきたからこそ、生き抜く力が身に付いたという。「疎開先でお世話になったことを忘れず、困っている人の力になり、人のために尽くしなさい」と言い続けた母の言葉が、脳裏にしっかり刻み込まれた。

▼被災地の東松島にて

（株）東海バスに入社し、修善寺営業所でバスガイドとして勤務した後、三島に嫁いだ。子育てを終えると「人のためになることをしたい」という思いから、ご主人と共にボランティア活動に参加するようになった。養護施設へ食料などを寄付したり、小山町豪雨災害の復旧ボランティアに参加したりした。平成 23（2011）年 6 月、修善寺のＮＰＯ団体が企画した東日本大震災のボランティアツアーに応募し、2 泊 3 日の行程で東松島の側溝掃除を行った。ダンボールいっぱいのトマトやゆで卵、ペットボトルの水やお茶をケースごと自宅から持参し、同行者に差し入れたという。

源兵衛川の清掃をきっかけにＧＷ三島を知り、以後、様々な活動に参加することになった。小麦つくり隊やそばつくり隊では、種蒔きから収穫まで携わっている。そばがらから、枕を作ることを思いつき、ＧＷ三島で販売することを提案した。これが大人気の**「まどろみ夢枕」**である。

活動で一緒になる若者たちに期待することは、「今何をすべきか、何ができるかを考え、能動的に動く姿勢を持ってほしい」ということ。

大人気の、そばがら製「まどろみ夢枕」

大病の経験や持病などの困難を微塵も感じさせない活動内容や、バスガイド時代や海外旅行で知り合った人たちとの今も続く交流。人の喜ぶ顔が、行動力の源なのかもしれない。

パッション No. 19

生き物観察は親子でトライ

地域へ何かお返しできないものか・・・ 職員、家族、子供が、楽しみつつ・・・

ちゃんかけ拾いの成果です！

医療法人社団志仁会　三島中央病院　本部企画室　　織田 章宏

三島市の街中に位置する三島中央病院。数年前から、地域へ何かお返しできないものかと模索をしていました。そんな折、内科外来の窓から源兵衛川で清掃をしているＧＷ三島の人たちを見掛けました。その後、ＧＷ三島の事務所を訪れ、様々な活動について教えていただきました。

「我々もやってみよう！」と病院一丸となって、定期的に源兵衛川の清掃に取り組むこととなりました。年に 2 回の開催を目標に、職員はもちろん、職員の家族からも参加を募りました。幸いなことに、多くの参加者もあり、社会へ貢献できていると思っています。また、子供の参加も多いため、ＧＷ三島の方に川で捕れた生き物の解説なども行っていただき、子供たちは楽しんでいるようです。今後もＧＷ三島のスタッフの方々にはお世話になることと思いますが、よろしくお願いいたします。

生き物を観察した後は、川へ戻します。

GW三島の活動記録 2014年2月1日－2014年5月31日

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
2	4	火	環境教育　（地域研修）	県立長陵高校中間・卒年生	源兵衛川	13
2	6	木	ゆめワーク三島	日大三島高校2年生 GW三島で職場体験	三島梅花藻の里、源兵衛川、街中カフェ	2
2	19	水	竹取物語	伐採竹材のチップ化作業	三島市御園	10
2	22	土	麻機遊水地勉強会	地域資源のあらたな活用について	静岡市・アイセル21	8
2	24	月	竹取物語（～2/26）	竹の伐採とチップ化作業	三島市川原ヶ谷（元山中）	20
3	1	土	「里」の援農活動	キャベツとホウレン草の植付け	三島市御園	10
3	2	日	富士山を守れ！子どもフィールドネットワーク	⑤須山御胎内探検～ふるさとの自然～	御殿場市	7
3	7	金	認知症サポーター養成講座	本人や家族を応援する基礎講座	三島市民活動センター	15
3	8	土	「山」の援農活動	馬鈴薯植え付け	三島市川原ヶ谷（元山中）	16
			三島街中ご利益ウォーキングツアー	神社ご利益祈願、歓喜寺で講話拝聴	三島市北上方面	18
			松毛川千年の森づくり（～3/9）	自然堤防再生ワンデイチャレンジ	松毛川	30
3	9	日	富士山を守れ！子どもフィールドネットワーク	⑨渓谷と湧水探検	山梨県都留市・大月市	26
3	15	土	竹あかりイベント	大通り商店街への設置	三島市広小路町	5
3	16	日	希少種保全フォーラム	現地視察、話題提供、車座座談会	源兵衛川、Via701	50
			プロジェクト未来遺産登録証伝達式	プロジェクト未来遺産登録証伝達	源兵衛川、Via701	50
3	22	土	富士山を守れ！子どもフィールドネットワーク	⑩伊豆ジオサイト探検とまとめ発表会	楽寿園、源兵衛川等	12
3	23	日	源兵衛川ふるさとの川づくり	下流部生息環境再生ワンデイチャレンジ	源兵衛川第7ゾーン	7
3	26	水	源兵衛川基礎講座	トンボ羽化殻調査実習	源兵衛川	4
3	28	金	子どもを元気に富士山プロジェクト（～3/30）	第15回心を元気にするショートツアー	小山町、三島市、伊豆市	46
4	27	日	「山」援農活動	竹林整備のための筍堀り	三島市川原ヶ谷（元山中）	16
4	29	火	「里山」援農活動	竹林整備のための筍堀り	三島市大場	12
5	2	金	「山」援農活動	馬鈴薯土寄せ・里芋植え付け	三島市川原ヶ谷（元山中）	6
5	11	日	子どもを元気に富士山プロジェクト（～5/12）	蛤浜山林再生活動、自然林体験教室	宮城県石巻市	53
5	12	月	「山」援農活動	種まき（枝豆、落花生、トウモロコシ）	三島市川原ヶ谷（元山中）	10
5	13	火	松毛川千年の森づくりトラスト	環境再生ワンデイチャレンジ（ゴミ収集）	松毛川	50
5	15	木	源兵衛川ヤングサポーター育成塾	県立清水特別支援学校高等部2年体験学習	源兵衛川	42
5	27	火	県知事表敬訪問	プロジェクト未来遺産登録報告	静岡県庁	11
5	31	土	境川・清住緑地愛護会	田植え	境川・清住緑地	88

〈定例作業〉★三島梅花藻の里 21回　★鏡池ミニ公園 4回　★桜川 4回
★宮さんの川 毎日　★源兵衛川 21回　★沢地グローバルガーデン 4回
〈定例会議〉★インストラクター会議 4回　★編集会議 8回

視察来訪者記録　H26.2.1～H26.5.31

月	日	団体名	人数	地域
2	10	霞ヶ浦水位対策協議会	30	茨城
2	14	坂戸地区区長会	31	埼玉
2	16	県立浜松城北工業高校 環境・社会貢献クラブ	45	静岡
2	20	一般社団法人地域問題研究所	1	愛知
2	21	宜野湾市教育委員会文化課	12	沖縄
3	28	第15回心を元気にするショートツアー	46	宮城
4	12	京都造形芸術大学　ランドスケープデザインコース学習会	20	静岡
4	19	日本国際協力センター　サウジアラビア女子大学院生	25	海外
5	23	日本国際協力センター　フィリピン大学生	33	海外
5	30	東京都府中市役所	4	東京

訃報

GW三島の活動に尽力されたGW三島農業アドバイザーの杉山光良さん（2月）、GW三島インストラクターの秋山計人さん（5月）が、逝去されました。
心よりお悔やみを申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

前号掲載の「ふるさと人物伝・庄司峯子さん」を囲んでの編集室

2月28日、シンガポール旅行から帰国したばかりの庄司峯子さんをお招きして、旅の話や若さの秘訣をお聞きした。旅アルバムも持参され、一同「さすが！」と頷いてしまった。

竹の子掘り（元山中、大場）

放置竹林の整備作業の一環として、4月27日、29日に、遊水匠の会の協力で竹の子掘りを実施。茹でて味わったり、参加記念土産にしたり、三島街中カフェで販売したり、春の味覚は多くの人々に喜ばれた。

GW笠間が活動報告

2月24日、茨城県笠間市にて、GW三島が平成24年度に実施した復興支援型地域社会雇用創造事業に応募し、新規事業部門を立ち上げたGW笠間とその協力者を対象とした支援活動報告会を開催した。参加者は17人。
前川卓三GW三島アドバイザーより活動のための手法の説明を受けた後、ワークショップを行った。住民参加を促し、地域が抱える問題に取り組む人材育成の重要性を確認しあった。

GW三島事務局新スタッフ

美和（みわ） 将弘（あきひろ）

林（はやし） 丈雄（たけお）
(株) パートナーシップトラスト

山本（やまもと） 実生（みお）
(株) パートナーシップトラスト

松毛川環境再生ワンデイチャレンジ開催

5月13日、「松毛川千年の森づくりトラスト」の一環で、三島市御園・松毛川右岸の河畔の堆積ゴミの除去作業を、地元の御園町内会、松毛三日月会、三島市との協働事業で実施した。2tトラック約2台分ものゴミが除去できた。

「子どもを元気に富士山プロジェクト」伊豆の職人による石巻市蛤浜の山林再生ワークショップ＆自然体験教室

5月11、12日、GW三島と自然再生や被災地支援活動で連携してきた伊豆市の山竹種苗園の職人チームが、蛤浜再生に取り組む地元の若者による「蛤浜再生プロジェクト」と連携し、山林再生や間伐材利活用のノウハウを伝授するワークショップを石巻市で開催した。チップ化した破材は、テントサイトとなる敷地に敷き詰められ、フカフカの地面となった。さらに、スギの間伐材を利用した階段づくりにも挑戦した。
また、「心を元気にするショートツアー」へ参加している石巻のサッカーチーム「開北FCファンタジスタ」の小学生と保護者を招待し、蛤浜の再生過程の見学、ネイチャーゲームやバーベキューを実施した。

第 15 回「心を元気にするショートツアー」開催
～東日本大震災支援活動「子どもを元気にする富士山プロジェクト」～

3 月 28 日～30 日、第 15 回「心を元気にするショートツァー」を開催。今回は宮城県石巻市のサッカーチーム・開北ＦＣファンタジスタの小学生 34 人と、監督、コーチ、家族を含む計 46 人が参加した。

1 日目：夜行バスが到着した 28 日朝は、富士山が美しい姿で出迎え、水ヶ塚駐車場では間近に見る富士山に感動。その後、富士山西臼塚で自然探検、富士宮焼きそばの昼食、富士山本宮浅間大社で参拝。午後は源兵衛川の水辺散策と生き物さがし。加須屋真常葉大学非常勤講師から生き物の魅力、捕獲方法を学んだあと、川魚、エビなどを捕まえ、生態について学んだ。夜は伊豆の古民家で交流食事会開催。

2 日目：午前中は南二日町グランドにて三島市内の小学校サッカーチーム、4 チーム（三島ＶＦＣ、三島東ＳＳＳ、長伏ＳＳＳ、三島北上ＳＣ）と交流戦を実施。白熱した好ゲームが展開。終了後は参加者 120 名が健闘をたたえ合い、握手交換をした。午後は静岡サッカーミュージアムで日本サッカーの歴史を学んだ。初めて見るミュージアム内の大型サッカーボードゲームを夢中になって対戦。

子供たちのツアーと並行し、母親たちと支援活動に協力を仰いでいる石巻市役所のみなさんを対象に、癒しのツアー「伊豆の自然・桜めぐり」も実施され、ゆったりした時間を過ごしてもらった。

3 日目：雨の中、源兵衛川・雷井戸のエコ・スタディツアーを実施。加須屋講師の解説で、参加者は身近な環境改善の大切さや可能性を学んだ。雷井戸では、井戸の大きさに驚き、井戸水のくみ上げに盛り上がった。大人の参加者から「運河の町石巻には汚れた川やため池が多い。子供たちのためにも、きれいにできないか」との声が上がった。

世界の宝物・富士山を守れ！子どもフィールドネットワーク活動
第 5 回須山御胎内探検～ふるさとの自然～

3 月 2 日、常葉大学非常勤講師・富士山自然誌研究会代表の菅原久夫さんを迎え、駿東郡小山町の冨士浅間神社（須走浅間神社）や御殿場市の須山御胎内にて、富士山麓の森に生きる動植物について学んだ。 須走浅間神社では、静岡県指定天然記念物のハルニナやブナ、スギ、カエデの周りで、落ち葉や木の実の観察をし、針葉樹と広葉樹の違いや、標高・気候によって植生が変化することも学んだ。ここではシカの足跡も発見！！

午後は富士山麓にある茅場を見学。定期的に人が草木を焼くことによって、このような草原が維持できるということを学び、ヤマハンノキの種やシカの糞なども発見した。

竹 取 物 語（竹材伐採・チップ化作業）

ＧＷ三島では、三島市御園地区（松毛川右岸の上・中流部の河畔）や元山中地区（箱根西麓）において、放置竹林を整備する「竹取物語」を開催。

★2 月 19 日、御園地区で 1 月に伐採した竹を機械（チッパー）にかけて竹チップを作った。竹チップの大きな山ができ環境が一段と整備された。

★2 月 24 日、元山中地区で孟宗竹の伐採作業をした。大きくて固い竹で、ロープを使って竹の倒れる方向を調整しながらの大変な作業だった。

★2 月 25、26 日、元山中地区で前日に伐採した竹をチップ化、孟宗竹は太く固いのでチップ化するにも一苦労、太い物はマサカリで割ってから機械に投入した。2 日間の大変な作業だったが、竹チップの大きな山ができ竹林は大分片付き綺麗になった。

松 毛 川
自然堤防再生ワンデイチャレンジ
～気分スッキリ達成感！～

3 月 8、9 日に松毛川右岸・三島市御園側の中流部の自然堤防再生作業を行った。地元住民、松毛三日月会メンバー、大学生インターン生、ＧＷ三島スタッフ等 30 人が参加。

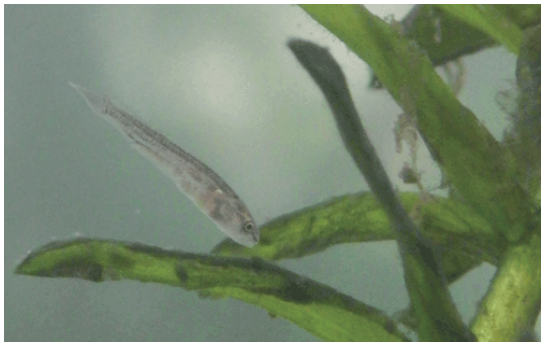
今回は河畔に繁茂した竹を伐採し、伐採竹材で竹しがらを作り、設置する作業を行った。竹しがらは河岸の浸食を防ぎ、河畔林を守ってくれるので、春の増水前に設置が必要。両日とも最高の作業日和で、竹伐採班と竹しがら設置班に分かれて作業を開始。河畔の竹は一掃され、松毛川の川面が見渡せるようになった。

三島街中ご利益
ウォーキングツアー（北上方面）
～みなさんに幸あれ～

3 月 8 日、富士山も顔を見せ、最高のウォーキング日和。小松幸子・城所徂帝、両講師の案内で、東京農工大学の学生（新里早暎さん、小栗瑞紀さん）と市民等 18 人が参加。

浅間神社に集合、三島駅北側のイチョウ並木を通り、耳石神社に向かった。耳石神社は、耳の病を治す霊験あらたかな神社として伝えられている。次に遠成寺(おんじょうじ)を訪ね、青木橋を通過し、八乙女神社に到着。八乙女神社は安産と芸能の神として信仰を集めている。最後に歓喜寺で住職の講話を聞いた。境内には、寺に集まった人々の命を救ったといわれている延命地蔵尊が安置されている。鏡池や菰池を経て白滝公園で解散。「次のウォーキングツアーはいつかな？」と参加者から期待された。

三島市内の写真集



撮 影 者：加藤 眞理子さん
撮影場所：ＧＷ三島事務所
ひとこと：源兵衛川希少種水族館生まれのホトケドジョウの稚魚は、順調に成長しています。兄弟も、たくさんいます。みなさんも見に来てください。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Ｅメールに添付し、ＧＷ三島事務局までお寄せください。
Ｅメール：info@gwmishima.jp

ご寄付

ありがとうございます！

「子どもを元気に富士山プロジェクト」ほか、ＧＷ三島の活動のために使わせていただきます。

＊フヨウサキナ様

6,500,000 円

サウジアラビア女子大学院生・視察研修で来訪

一般財団法人
日本国際協力センターの紹介

男性保護者（父、兄、夫など、幼児２人も連れて・・・）が、女子大学院生に同行！

引率者も大学院生たちも、民族衣装に身を包み。

４月 19 日、サウジアラビアの女子大学院生８人と同行の男性保護者や幼児を含む関係者 22 人が大型バスで視察に訪れた。視察の目的は「地域密着の環境活動、女性の活用事例、地域の特色や自然を生かした街づくりを学ぶ」というもので、小松幸子ＧＷ三島理事長が源兵衛川等を案内した。

院生は三島の水辺の美しさに感激し、清流復活の経緯等の話に聞き入って熱心にメモを取ったりカメラを向けたり、流れる水に手を浸したりしていた。「母国にもボランティア活動はありますが、これほど総合的な取り組みはありません」と感想を述べた。また『バイリンガル環境かるた』の体験後、かるたのアイデアに感心し、グローバル文化交流協会からのかるた等の贈呈に感謝していた。「三島街中カフェ」にも立ち寄り、２号店では夏の帽子を試着してにっこりする院生もいた。

引率の大学教授アスマ・アルアルワニさんは「発展する中、環境汚染が進む母国サウジアラビアでは、環境を守るという意識共有が大切で、ＧＷ三島の活動を見習いたい」と述べた。

フィリピンの大学生・視察研修で来訪

一般財団法人日本国際協力センターの紹介
三島滞在は、５月 23 日～25 日

５月 23 日、日本政府のアジア大洋州諸国間との青少年交流事業の一環として、フィリピンの大学生 28 人と引率者や関係者 30 余人が三島を来訪。訪日団のテーマは、科学技術、ものづくり、先端技術の視察研修。

今回は白滝公園をスタート地点として、源兵衛川、三島梅花藻の里など、ＧＷ三島の新しい取り組みや実践地を案内説明した。Ａグループを小松幸子ＧＷ三島理事長、Ｂグループを越沼正ＧＷ三島評議員と城所徂帝インストラクターが担当。清流が湧き始めた三島のせせらぎを堪能しながらも、熱心に視察。また、三島街中カフェでの説明後は、買い物も楽しんだ。夕方には、三島市役所本庁でホストファミリーとの対面式。大学生は１軒に 2～3 人ずつ２泊３日の家庭滞在。ＧＷ三島は、会場手配やホームステイ先の紹介もして主催者から感謝された。

GW三島編集室メンバーも、ホームステイに協力

←お元気な 100 歳のお母さん（中央前列の津田たまさんで、充子さんの母親）が同居されている前田幸一・充子ご夫妻宅へ、ホームステイした女子大学生は３人。浴衣姿の左からダリサイさん、イリスさん、カーラさん。中央後列は、前田さんの長女の川嶋（前田）真紀さんで、ＪＡＸＡ勤務。筑波市から駆け付けてくださった由。皆で箸袋を折ったりする経験も。

←水野敏雄・幾子ご夫妻宅へホームステイした女子大学生は２人。左から、マーチさん、ナイカさん。マーチさんは、前田さん宅へステイしたダリサイさんの姉。

最終日に用事ができたご主人に代わって、山田勝造さんと小松幸子さんも同行。

楽寿園の楽寿館や三島市郷土資料館の見学などで、三島への理解を深めてもらった。

グラウンドワーク三島編集室　（編集室メンバーは50 音順）ボランタリーニュース 53 号の編集ほか
加藤 美穂　河田 恵美子　岸野 和子　城所 徂帝　小松 幸子　斎藤 彩子　本田 博子
前田 充子　水野 幾子　村澤 圭　山崎 多紀子　山田 勝造　ＧＷ三島事務局担当：村上 茂之